

第3学年外国語科（英語）学習指導案

指導者 京教 太郎
指導教員 附属 京子

1. 日時 令和○年○月○日（水） 第○校時（○：○○～○：○○）

2. 学年・組 第3学年○組 計○○名

3. 場所 第3学年○組教室

4. 単元名 *New Crown English Series 3 Lesson 5 “I Have a Dream”*

5. 単元の目標

（知識・技能）

- ・関係代名詞（目的格）**that** と **which** および接触節について、意味・用法を正しく理解し、使うことができる。
- ・関係代名詞（目的格）の **that** と **which** に関して、それぞれの特性を理解し、正しく使い分けることができる。

（思考・判断・表現）

- ・関係代名詞（目的格）**that** と **which** および接触節を正しく用いて、相手の知らない人や物について文中で情報を加えることができる。
- ・公民権運動やそれに関わった人たちとその社会について理解を深め、自分の考えや意見を表現することができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

- ・人権についての理解を深め、自身の周りの社会を見つめながら考えることができる。
- ・様々な意見や考えを交流し、よりよい社会のためにできることについて考えることができる。

6. 単元について

①教材観

本単元では、ローザ・パークやマーチン・ルーサー・キング・ジュニアを取り上げながら、アメリカにおける公民権運動について取り上げられている。義務教育9年間の最終段階にして、よりよく生きること、また他者と協調し、理解し、手を取り合って生きていくことの大切さや、人としてどう生きていくのかといった点において大変重要な題材である。アメリ

カと言えば、自由で豪快な印象を持たれていることが多いだろうが、生徒の生まれる前には、信じるのが難しいような人種差別が行われていたことは驚きであろう。また、未だすべての人種差別が解決したわけではなく、現在進行形で身近な話題として学習することは、今後すべての人が生きやすい世界にするために不可欠なことである。本単元ではごく一部にすぎないが、公民権運動に関して生徒の知識と理解を刺激し、より深い思考を促す教材である。

関係代名詞（目的格）は先行詞に文中で情報を付け加えることができる。前単元では関係代名詞（主格）について学習している。関係代名詞は、名詞を後ろから修飾するものであり、説明される名詞と、名詞を説明する文をつなげる働きをするものである。中学校で学習する関係代名詞には、**which, that, who** があり、先行詞や説明する文によっていずれかを選択する。関係代名詞（目的格）の文では、関係代名詞以降の文における動詞の動作対象を先行詞が受けることとなる。例えば、**This is the book that I read last night.** では、先行詞が **the book** となり、関係代名詞 **that** 以降の動詞 **read** の動作の対象となる。よって「私が昨夜読んだ本」となる。また接触節については、説明される語の後、それを説明するための主語と動詞が続くことから、関係代名詞（目的格）の省略と見ることもできる。特に口語では関係代名詞（目的格）より接触節の方が多くつかわれる傾向があり、どちらも正しく理解し使用できるようにしておく必要があると思われる。生徒は日常生活において、テレビ番組やアニメのキャラクターなどについての話題が上がることが多い。この場合、共通に理解しているもの出ない場合は、「私が昨日見たテレビ番組」や「炭次郎が倒した鬼」など、文中において説明を付け加えて表現することが有効であり、英語においては関係代名詞及び接触節を用いて表現することができる。

②生徒観

生徒は3年間ほぼ毎週道徳の時間を経験してきている。普段からよりよく生きるために考えることを目的にいろいろなことについて考えたり意見を聞いたりすることを通して、考えを深めてきた。特に12月には、人権月間として人権についてより深く学習してきている。生徒の身の回りにある人権や差別の問題は、障がい者やジェンダーについての問題が挙げられるだろう。ニュースや授業でも取り上げるのでこれらの問題については身近に感じる人が多いかもしれない。しかしながら、本単元で扱う、アフリカ系アメリカ人の差別について問題については、あまり身近に考えられないかもしれない。なぜなら、日本においては外国出身の人を見かけることは少なく、特に中学生にとっては観光が盛んな京都においても、見かけることはあっても実際に交流することは多くないと考えられる。また、生徒の多くは自分自身が不条理な差別を受けることを経験していないと思われるため、生まれた場所や肌の色で差別が行われるということに対して、理解が深くないと考えられる。未だにそのような差別は解決しきれていないことについても、遠く離れた場所のこととして、理解が難しいかもしれない。

生徒は前単元において、関係代名詞（主格）を学習した。マンガやアニメのキャラクター

を取り上げ、それらについて情報を付け加える文を書いたり話したりしながら使用した。先行詞による **that, who** の使い分けはかねがね理解し、正しく用いながら発話したり書いたりすることができた。ただし関係代名詞に気を取られがちになり、その語の三人称単数現在の **s** を付け忘れたり、時制について誤りが見られたりすることもあった。また先行詞が人と人以外の場合や、修飾する表現が最上級の場合などに合わせて関係代名詞を使い分ける際にも、ルールがあいまいになって使い分けに苦勞する生徒も見られた。そのようなことから、関係代名詞（目的格）の学習において、先行詞を説明する節において、動詞の動作の対象となる目的語が抜ける点において理解が十分にされず、**This is the book that I read it last night.** のようにしてしまうことが考えられる。また関係代名詞（主格）と混同して先行詞を説明する節において主語を省略してしまい、**This is the book that read last night.** としてしまうことも考えられる。さらに、交互においては、**that** の後にポーズを置いて、理解が難しくなることも予想されると考える。

③指導観

アフリカ系アメリカ人への差別についてより身近に考えられるよう、写真や動画を用いた導入を行う。さらに、白人ではない映画俳優やミュージシャンを取り上げ、導入の一端とする。またアフリカ系アメリカ人とどまらず、ジェンダーや障がい者に対する差別についても意見を求め、よりよく生きることに對する真摯な態度を促したい。関係代名詞（主格）を前単元で学習していることから、関係代名詞（目的格）との混同が起こることを避けるために、復習において、関係代名詞（主格）の徹底的な定着を図ったのち、関係代名詞（目的格）の導入を行う。その際、両者の違いが感じられるよう例文に注意し、オーラル・インタラクショからメカニカルドリル、ミーニングフルドリルへと移行し、口をついて表現が出るまで口頭で練習を行う。特に三人称単数現在の **s** や時制についてエラーが起こらないよう、例文やパンプラクティスにおいてそれらを意図的に登場させ、定着を図りたい。また語順や主語の抜けが起こらないよう、また説明する節において目的語を残さないよう、関係代名詞（目的格）の典型的な文をターゲットセンテンスとして取り上げ、場所の上コピーイングを通して視覚的に理解させるようにも努めたい。特に発話におけるイントネーションには気を付けて話せるよう、生徒の発話に違和感がある場合は、すぐにフィードバックを与え、全体に共有することで違和感のない発話が定着するよう焦点を当てる。

7. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①関係代名詞（目的格）の意味・用法を理解している。 ②関係代名詞（目的格）を使	①相手の知らないものや人物について、関係代名詞（目的格）を使って、どの	①公民権運動から世界に存在する人権問題について考え、あるべき未来につ

って、文中で先行詞を説明する文を使用したコミュニケーションをすることができる。	ようなもの・人物なのかを一文で伝えることができる。 ②相手の知っていることや興味のあることを踏まえ、関係代名詞（目的格）を使って、薦めたいものについて説明しながら紹介することができる。	いて考えを深めようとする。 ②社会の身近な場面において、どのような考え方や態度が互いのよりよい生き方につながるのかについて意見を交流しようとしている。
---	--	---

8. 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価基準・評価方法等
1	1	過去や現在の世界のいろいろな人権問題について知り、それらについて自分の意見を考えたりクラスメイトと交流したりしながら身近な問題として捉える。	
		公民権運動、障がい者差別、ジェンダー差別、アフガニスタンの女性の現在の境遇について写真や動画、新聞記事を取り上げて共有し、クラスメイトと互いにどのような思いを持ったのかを共有しあう。	授業内での交流やワークシートへの記入から、該当の事案について自分の意見をかねがね正しい表現を用いて示すことができているのかを確認する。
2	2	本文の内容を読んで意見を交流しつつ、関係代名詞（目的格）と接触節の意味用法について正しく理解し、自己表現活動において効果的に使用する。	
	3	オーラル・インタラクションから関係代名詞（目的格）と接触節の使用される場面について理解を深め、パターンプラクティスを通して語順やイントネーションを身に着ける。	ミーニングフルドリルの表現を口頭やワークシートで確認することにより、正しい用法や使用場面をとらえられているか確認する。
	4	自分の好きな人物を取り上げ、その人物について関係代名詞（目的格）や接触節を用いてクラスメイトに紹介する。	任意の人物についてどのような人物なのかを説明しクラスメイトと共有し、正しく表現できているのかを観察及びワークシートおよび課題の提出によって確認する。
	5		

		公民権運動やローザパークスについて理解を深め、自分の考えやアイデアをクラスメイトと共有したりまとめた文にして書いたりして表現する。	写真を見たり話を読んだりする中で感じたことを共感的に捉え、クラスメイトと共有しているのかを机間指導での観察によって確認するほか、自身の考えについてまとめた文としてライティングの課題を課し、その内容を評価する。
3		マーチン・ルーサー・キング・ジュニアと彼の演説の一部を読み、この時代に起こったことへの理解を深めつつ、演説の一文一文が主張する彼の目指す未来について個別に考える。	
	6	Use Read を読んで、それぞれの段落の内容をとらえ、物語の概要をチャートに書き込みながら理解を深める。	ワークシートを用いて、それぞれの段落の概要と段落番号が合致できているかを見つつ、内容を概略化したものを時系列に並べ穴埋め形式で正しくとらえられているのかを評価する。
	7	演説の内容とその背景を理解し、相手の存在を想像してオーラル・インタープリテーションを行う。	単元後に発表課題として個別の発表により、意図した表現となっているのかを確認・評価する。
	8	現在の人権にかかわる問題を一つ取り上げ、よりよい社会にするために何をしたらよいのかをまとめた文章で書いて交流する。	任意の問題について10文以上のライティングによって、主張と理由が述べられており効果的な構成になっているのかを評価し、また定期考査においても同様の課題によって評価する。
4	9	「京都市の問題を踏まえた街活性化のための京都紹介」と「他国の同世代の女性に対して京都のおすすめスポット紹介」についてインスタグラムへの投稿をイメージしたショートプレゼンテーション発表を行う。	
	10	自身が相手に最適だと思う場所を一つ取り上げ、その場所がどのような場所なのか、どのような理由でその場所を薦めるのかを明確にしてかねがね10文程度での口頭発表を行う。	発表において効果的なキーワードや理由の提示を行い、相手を意識したプレゼンテーションとなっているのかを観察・評価するとともに、原稿についてワークシートを回収し、言語材料の使用の正確さおよび全体の構成について効果的な

			ものとなっているのかを評価する。
5	11	「京都の町への招待状で、魅力ある京都を紹介しよう。」において、自分と相手の興味・関心の違いを踏まえて、書くこと、招待状の効果的な書き方について学習する。	
	12	設定された相手に対し、自分の興味があることを中心に、相手が興味を持ちそうなこと、喜んでもらえそうな内容などを考え、招待状の形式で魅力を発信する。	一般的な招待状の形式をかねがね踏襲しているか。京都の魅力を一方的な紹介ではなく、開いて意識をもって内容を検討できているか。相手の知らない場所について既習の言語材料を効果的に使用しながら書いているか。

9. 本時の学習

①本時の目標

- ・関係代名詞（目的格）を使って意味・用法に気を付けながら自分の伝えたい人や場所について書く。（知識・理解）
- ・相手の知らない人や場所について、わかりやすく伝えるように意識して活動に取り組む。（主体的に学習に取り組む態度）

②本時について

本時では、本単元の言語材料（関係代名詞（目的格）、接触節）の導入として、オーラルに焦点を当てて関係代名詞（目的格）を取り扱う時間とする。関係代名詞（主格）は全単元において取り扱っている。関係代名詞（目的格）は文中で物や人などの名詞を、後ろから修飾してより詳しく内容を説明する役割を持っている。関係代名詞で修飾される名詞は先行詞と呼ばれ、続いて **which, that** 等の関係代名詞を置き、名詞と動詞が続き「(名詞) が (動詞) する (先行詞)」という意になる。この接触節内の動詞は他動詞であり、接触節を単文にすれば、他動詞の目的語は先行詞である名詞になる。また接触節内では他動詞の目的語は示されない。関係代名詞（目的格）を用いた表現は、相手が知らないものや人を紹介する時に便利である。例えば、生徒同士が話す場面では、学校の休み時間に、名前を思い出せない芸能人やマンガのキャラクターなどを伝えるときに、「新垣結衣が結婚した芸能人」や「ルパンが好きなキャラクター」などのように日常的に用いられる表現であり、英語を使ったコミュニケーションの中では、これらを表現するために非常に有用な言語材料となるであろう。

生徒はこれまでに、関係代名詞（主格）を学習している。単元末の小テストでは、語順や英作文においてかねがね正しく問題を解くことができていたので、関係代名詞（主格）を使

って後ろから先行詞を修飾するという表現には十分慣れていると思われる。しかしながら接触節において、時制や三人称単数現在の s を忘れるなどのミスも見られた。コミュニケーションの場面では特に時制と三人称単数の s を忘れがちなことが多く、口頭では特に気を付けなければならない。前単元で関係代名詞（主格）をしていることから、後ろから修飾する文全体の意味合いは理解しやすいと考える。しかしながら、関係代名詞（主格）と混同して、関係代名詞（目的格）の後に名詞と動詞を置くべきところで、名詞を飛ばしてしまうことがあるかもしれない。生徒によっては、関係代名詞（主格）と関係代名詞（目的格）で意味の混同や語順において戸惑いを感じられる可能性も考えられる。また、関係代名詞を用いた文は、長い文となることが多いため、意味が取りにくくなることもあるだろう。イントネーションにおいても、口頭において上げ調子で読むべきところや、ポーズを置くタイミングが不適切になり、自然なイントネーションからかけ離れてしまうことも予想される。

指導においては、まずオーラル・インタラクションにおいて、全単元で学習した関係代名詞（主格）を用いて生徒とのインタラクションを図り、復習として表現の意味や語順を抑えたい。続いて、生徒とのインタラクションを図りながら、スポーツ選手や芸能人などの有名な人物や場所を用いてクイズ大会を行って、関係代名詞（目的格）の導入とする。その際、文字を提示することはなく、モザイクのかかった人物や場所の画像をモニターに提示し、関係代名詞（目的格）を用いた文でヒントを複数聞かせる。その後口頭での練習として、先ほどのクイズのヒントで用いた関係代名詞（目的格）を用いた文を復唱させることによって、語順とイントネーションの定着を図りたい。さらにモニターに人物とそれを説明する動詞を表す画像を提示し、それをキューとしてパンプラクティスを行う。さらに、これまでに示していない人物をモニターに提示して、その人物の場合は、どのような表現で表すことができるのかを問う。次に、基本となる文を二つ取り上げ、黒板に提示するとともに、関係代名詞を赤で示すこと、またそれに続く名詞と動詞の部分に下線を引き、そこから先行詞に矢印をつなげ、それをワークシートにコピーイングさせることによって、文中のそれぞれの意味や役割を気づかせる。次の展開では、人物と場所をひとつずつ提示し、どのような表現ができるのかを個別に考えさせ、ワークシートに記入させる。この時、机間指導とペアでの共有によって、表現の間違いないかに焦点を当てさせ、より正確な表現となるよう意識させる。また想定される典型的なミスについては全体で共有し、同様のミスが起らないよう促したい。発展の場面では、3 ヒントクイズをすることを伝え、モデルとなる指導者からのヒントの文を黒板に提示する。時間を設定し、それぞれオリジナルの 3 ヒントクイズを考えさせる。3 ヒントクイズが完成したらグループで、それぞれのクイズを出し合わせる。グループで最も難しく、かつヒントが明確に答えを示しているものを一つ選ばせ、クラス全体にクイズを出させる。まとめの場面では、3 ヒントクイズのモデルで示した 3 つのヒントの文を提示して、それぞれの語順やイントネーション、意味を確認する。

③本時の展開

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援 (指導者の活動)	評価方法
復習 4分	<u>前時までの復習</u> モニターに映された画像を見て、どのような表現で言うことができるのかを考える。	関係代名詞（主格）の文を表す画像をモニターに提示して、どのような表現で伝えられるのかを考えるよう促す。	
導入 15分	<u>オーラルインタラクション</u> クイズに挑戦。教員からヒントを聞いて、何のことを言っているのかを考える。 モニターに提示された画像を見ながら、ヒントを口頭で教員に続いて復唱する。 モニターに提示された画像や語をもとに、英文で言う練習をする。 提示された場所や人について、どのように言えるのか、パターンプラクティスで用いた表現を使って考える。	関係代名詞（目的格）を用いたヒントを聞かせ、何のことを言っているのかを考えさせる。5問程度用意する。 ヒントで使った表現を復習し、発音とイントネーションの練習をさせる。 パターンプラクティスによって、ヒント以外の文も言えるように練習させる。 場所や人を提示し、それらについてどのように言えるのかを考えさせる。	
展開① 10分	<u>言語材料の確認</u> 黒板に書かれた文をワークシートに写しながら、説明を聞く。 提示された人と場所について、新しい表現を使って自分で書く。	ヒントで用いた文を二つ黒板に板書する。関係代名詞は黄色を使って書き、語順、つづり、イントネーションについて英語で強調して話して伝える。 人物と場所を3つ提示して、自分で英語で書けるか挑戦させる。 生徒を指名して黒板に書か	新しい表現を使って、文を作れているか。(ワークシート)

		せ、解説する。	
展開② 18分	3 ヒントクイズをつくる 教員のモデルを聞く。 自分で一つの人か場所を選び、それについて新しい表現を使ってヒントを3つ作る。 グループでクイズを出し合う。 グループの中で最もよいものを選ぶ 各グループで選ばれたクイズをクラスで聞いて解く。	モデルのクイズのヒントを聞かせる。それぞれのヒントの文を提示する。 それぞれがクイズを作ること伝え、ワークシートにヒントを書くよう伝える。 グループに分け、それぞれでクイズに挑戦し合うよう指示する。 グループの中で、最も良いもの、難しすぎず、簡単すぎないものを選ばせる。 選ばれた生徒を教壇に立たせ、クラスに向かってクイズを出させる。	ヒントを考え、意欲的にグループ活動に参加しているか。(観察)
まとめ	最初に提示された表現等を聞いたり、言ったりして、表現の語順やイントネーション等を確認する。	まとめとして、導入で用いたヒントを中心に表現の確認をする。	

10. 本時の評価

- ・展開①において、ワークシートに関係代名詞（目的格）を用いて正しく文を2文以上書いているか。(思考・判断・表現、ワークシート)
- ・展開②のグループワークにおいて、積極的にクラスメイトのクイズに答えたり考えたりし、自分のクイズを意欲的に伝えているか。(主体的に学習に取り組む態度、観察およびワークシート)

板書

December 1st, Wednesday sunny	HIROSHIMA
	HINT 1
	This is the place that I visited last month.
This is the present which I got last Christmas.	
	HINT 2
He is the man that I saw at the concert last year.	This is the place that Mr. Obama visited in 2016.
	HINT 3
	This is the place that you studied in social studies class.

教具

教員用パソコン、学級設置 TV モニター、ワークシート